

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
工芸科学部	応用生物学課程 応用化学課程 生体分子応用化学課程 生体分子工学課程 高分子機能工学課程 物質工学課程 電子システム工学課程 情報工学課程 機械工学課程 デザイン経営工学課程 デザイン・建築学課程(新) デザイン・建築学課程(旧) 先端科学技術課程	夜間	36	7	71	114	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Webによる公開 https://www.syllabus.kit.ac.jp/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

Webによる公表 https://www.kit.ac.jp/uni_index/principle/organize/executive/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	私立大学名誉教授 ・客員教授	2021年4月1日 ～2022年3月31日	研究倫理・コンプライアンス
非常勤	特許事務所所長 ・弁理士	2021年4月1日 ～2022年3月31日	知的財産・コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年2月に次年度開講する全科目について、総合教育センター長から授業担当教員に授業計画(シラバス)の作成依頼を行い、4月1日にWeb公開している。総合教育センターでは、シラバスの全記載項目について、審議・決定している他、各授業科目において、適正に記載されているか随時点検も行っている。掲載項目は以下のとおり。</p> <p>【シラバスの項目】</p> <p>■科目分類 学部等、学域等、課程等、分類、今年度開講、年次、学期、曜日時限</p> <p>■科目情報 時間割番号、科目番号、単位数、授業形態、クラス、授業科目名、担当教員名、インターンシップ実施科目、国際科学技術コース提供科目、アクティブラーニング要素が含まれる科目、PBL実施科目、実務経験のある教員による科目、科目ナンバリング</p> <p>■授業の目的・概要</p> <p>■学習目標</p> <p>■学習目標の達成度の評価基準 (JABEE 関連科目のみ)</p> <p>■授業計画項目・内容</p> <p>■履修条件</p> <p>■受講に当たっての留意事項 (授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容や目安となる時間を含む)</p> <p>■教科書/参考書</p> <p>■成績評価の方法及び基準</p> <p>■備考</p>	
授業計画書の公表方法	Webによる公開 https://www.syllabus.kit.ac.jp/

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>成績評価の方法及び基準は、評価に用いる手段(試験、小テスト、レポート等)及びそれらの配分割合や判定基準等を科目毎に設定し、シラバスに明示するとともに、それらの学修成果を厳格かつ適正に評価し単位認定を実施している。なお、学期ごとに教員及び学生それぞれに対しアンケートを実施し、単位付与又は履修認定が適正に実施されているか確認している。</p>																																					
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学生に対して、適切に学修指導を行い、学生の学習意欲を向上させることを目的に、学修の状況及び成果を示す指標としてGPA制度を導入し、評価基準等をWebで公開している。</p> <p>全学生に配付する履修要項にGPA制度の趣旨を記載し、また新入生に対するオリエンテーションにおいて詳細な説明を行っている。この評価基準に基づき算定したGPA値を記載した成績表を学期毎に学生に交付している。</p> <p>また、課程長など各教育組織の責任者が各学生のGPAや単位取得状況、課程内の分布などを確認できるWebシステムを構築し、学修指導に活用している。</p> <p>GPAの算出方法については以下のとおり。</p> <p>[京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則(抜粋)]</p> <p>第14条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又はFをもって表し、S、A+、A、B+、B、C+及びCを合格とし、Fを不合格とする。なお、履修中止をW、認定を認と表記する。</p> <p>2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。</p>																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評点</th> <th>ポイント</th> <th>評価の基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S</td> <td>90点～100点</td> <td>4.0</td> <td>学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>A+</td> <td>85点～89点</td> <td>3.5</td> <td>学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>80点～84点</td> <td>3.0</td> <td>学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>B+</td> <td>75点～79点</td> <td>2.5</td> <td>学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70点～74点</td> <td>2.0</td> <td>学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。</td> </tr> <tr> <td>C+</td> <td>65点～69点</td> <td>1.5</td> <td>学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60点～64点</td> <td>1.0</td> <td>学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>60点未満</td> <td>0.0</td> <td>学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	評点	ポイント	評価の基準	S	90点～100点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。	A+	85点～89点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。	A	80点～84点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。	B+	75点～79点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。	B	70点～74点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。	C+	65点～69点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。	C	60点～64点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。	F	60点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。	<p>3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な学修指導に資するため、第1項の成績に当該学年のGPA(Grade Point Average)(当該学生が受講登録をした全ての授業科目(第8条の規定により履修を中止したものを除く。)に係る1単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。)及び入学後の累積のGPAを併記するものとする。</p> <p>4 GPAは、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる授業科目は、単位互換による授業科目、教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目及び単位認定授業科目を除く全授業科目とする。</p> <p>GPA={ (Sの修得単位数×4.0) + (A+の修得単位数×3.5) + (Aの修得単位数×3.0) + (B+の修得単位数×2.5) + (Bの修得単位数×2.0) + (C+の修得単位数×1.5) + (Cの修得単位数×1.0) } ÷ 総登録単位数(Fを含む。)</p>
評価	評点	ポイント	評価の基準																																		
S	90点～100点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。																																		
A+	85点～89点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。																																		
A	80点～84点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。																																		
B+	75点～79点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。																																		
B	70点～74点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。																																		
C+	65点～69点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。																																		
C	60点～64点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。																																		
F	60点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。																																		
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>Webによる公開</p> <p>https://www.kit.ac.jp/01/prescriptions/act/frame/frame110000144.htm</p>																																				

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では工芸科学部および各課程の教育研究上の目的を達成するため、学位授与の判断のための基本的な考え方、また期待する能力をディプロマ・ポリシーとして示し、Web で公開している。</p> <p>[京都工芸繊維大学工芸科学部ディプロマ・ポリシー]</p> <p>工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者 (TECH LEADER) を養成すること」を達成するために、以下に掲げる「工織コンピテンシー」(本学卒業生として有すべき能力) を定めています。</p> <p>この工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者 (TECH LEADER) となりうる人材と認め、「学士 (工学)」(応用生物学課程においては「学士 (農学)」) の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。</p> <p>学部ディプロマ・ポリシー (工織コンピテンシー)</p> <p>【専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの学習領域においての高度な専門知識・技術を有している。 ・ 新しい技術を国内外から学び、改善・発展する能力を有している。 <p>【リーダーシップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。 ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。 ・ 言語・文化・習慣など価値観の異なる多様な人々と、建設的な議論と他者支援を行い、成果へと導く能力を有している。 ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。 ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。 <p>【外国語運用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をを行い、表現をする能力を有している。 ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。 <p>【文化的アイデンティティ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。 ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>Web による公開 https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/B-DP_r3.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
財産目録	該当なし
事業報告書	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/financial-affairs-information/
監事による監査報告(書)	https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/auditor-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: Webによる公開 https://www.kit.ac.jp/national_university_corporation/self-monitoring/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 工芸科学部
教育研究上の目的 (公表方法: Web による公開) https://www.kit.ac.jp/01/prescriptions/act/frame/frame110000144.htm
(概要) 【応用生物学課程】 生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、グローバルな環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指す。 【応用化学課程】 自然科学の基礎知識、物質・材料の化学と工学に関する十分な専門知識と応用能力、将来の技術革新に対応できる基礎・専門知識とその応用能力、および将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる素養を身につけている。 【電子システム工学課程】 スマートフォンや生活家電など、日常生活にとって欠かせない存在となっている電子システムの基礎から応用までに関する教育と、最先端の研究を通じて、電子機器、自動車、ロボット、電力などの基幹産業でリーダーとなり活躍できる人材の育成を目指す。 【情報工学課程】 製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支える ICT 分野でリーダーシップをとって活躍する人材、および ICT を活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成を目指す。 【機械工学課程】 幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性のある人材の育成を目指します。 【デザイン・建築学課程】 地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。これを〈KYOTO デザイン〉と銘打つ。それは ① 生きた伝統と先進的マインドで生活を革新するデザイン力 ② 持続する京都で構想される未来起点の再生・価値創造力 ③ グローバルな知が揺籃される京都で可能なボーダーを超越した起業力で構成され、課程教育においては、このための基礎能力を開発する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：Webによる公開）

https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/B-DP_r3.pdf

【様式第2号の3より再掲】

工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成すること」を達成するために、以下に掲げる「工織コンピテンシー」（本学卒業生として有すべき能力）を定めています。

この工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）となりうる人材と認め、「学士（工学）」（応用生物学課程においては「学士（農学）」）の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。

学部 ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）

【専門性】

- ・ 自らの学習領域における高度な専門知識・技術を有している。
- ・ 新しい技術を国内外から学び、改善・発展する能力を有している。

【リーダーシップ】

- ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。
- ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。
- ・ 言語・文化・習慣など価値観の異なる多様な人々と、建設的な議論と他者支援を行い、成果へと導く能力を有している。
- ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。
- ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。

【外国語運用能力】

- ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をし、表現をする能力を有している。
- ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。

【文化的アイデンティティ】

- ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。
- ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Webによる公開）

https://www.kit.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/B-CP_r3.pdf

（概要）

本学では、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）の育成を行うために、「3×3（スリー・バイ・スリー）」と呼ばれる教育プログラム・システムを採用しています。「3×3」は、TECH LEADER 育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。

最初の「3」にあたる学部3年次までに、学生個々の選んだ専門課程での基盤となる専門力を確実に修得するとともに、英語を基本とした外国語運用能力、TECH LEADER としてのリーダーシップおよび文化的アイデンティティを育むことができるよう教育プログラムを構成しています。

次の「3」に含まれる学部4年次（大学院博士前期課程に進学予定の場合には、この年次を「M0（エムゼロと呼ぶ）」は、各自が修得した専門力を基に卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）に取り組むとともに、主体的に思考する深い教養力を養い育てる授業科目を履修したり、その後の研究やキャリア形成に寄与するインターンシップに当てたり、さらに大学院博士前期課程の授業科目を先行履修することも可能となるよう構築されています。

工芸科学部ではカリキュラム・ポリシーとして、学部ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）に掲げる「専門性、リーダーシップ、外国語運用能力、文化的アイデンティティ」と、各課程のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、以下の方針を採っています。

1. 外国語運用能力を身につけるため、「言語教育科目」群を設け、基本とする英語の修得を義務づけるとともに、他の言語も含めて一定単位以上の修得を義務づけています。この科目群の修得は、文化的アイデンティティを育むことにも寄与します。
2. 理工系専門技術者としての教養を身につけるために「人間教養科目」群を設け、さらにその群を「工芸科学教養科目」グループ、「基本教養科目」グループおよび「体の科学」とに分けた構成としています。「工芸科学教養科目」グループは、本学が目指す TECH LEADER の素養としての文化的アイデンティティやリーダーシップを育むことを目標としており、「基本教養科目」および「体の科学」グループでは、現代における社会人としての心身における教養を身につけることを目的としています。グループにはカテゴリーが設けられ、一定の単位以上の修得を義務づけているものもあります。
3. 各専門課程では、その専門分野に必要な基本リテラシー、専門概要・動向を学ぶために、1年次に「専門導入科目」を設け、その修得を義務づけています。
4. 理工系専門技術者としての基礎的な力を身につけるために、専門性の特性によって4つに分類された学域（応用生物学域、物質・材料科学域、設計工学域およびデザイン科学域）毎に「専門基礎科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。
5. 実践力の伴う専門職業能力を確実に身につけるために、講義だけでなく実験・実習・演習等にも重点をおいて体系化された「課程専門科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。3年次には、各課程の専門知識等を確認する判定が行われます。
6. 専門技術者としての研究能力、開発能力を身につけるために、4年次には「卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）」の修得を義務づけています。卒業研究等を履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。
7. 地域創生 Tech Program では、上記のほか、地域創生課題に取り組むプロジェクトと地域でのインターンシップを義務づけています。これらを履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。
8. 授業科目のナンバリングを行っており、これによって授業科目群や科目間の関連や科目内容のレベルが表現されており、体系的にプログラムを編成する方針が採られています。

また、各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により、目標の達成度に応じて評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Webによる公開）

https://www.kit.ac.jp/test_index/school-science-and-technology/

（概要）

【応用生物学課程】

〈人材育成の目標〉

生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、グローバルな環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

生物、化学、物理などの基礎学力だけでなく、生命と自然に対する豊かなセンスと、様々な自然現象に深い関心と興味を持ち、探求心と観察力に優れた人を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力や総合的な学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

生命と自然に対する敬愛、総合的学習能力、理数系志向、柔軟な発想、論理的な思考能力

【応用化学課程】

〈人材育成の目標〉

物質・材料の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身に着けた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

化学、物理、数学、英語などの基礎学力とその応用・発展能力に加えて、実験科学に対する深い興味と人文科学、社会科学への幅広い関心を持ち、課題に向かって情熱的に取り組む意欲ある人材を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

化学に対する旺盛な好奇心、それを基に物質や材料さらには生体関連物質に対する好奇心・学習意欲、創造的、論理的思考能力、柔軟で独創的な発想、チャレンジ精神と行動力、そして自然科学を学ぶための基礎学力

【電子システム工学課程】

〈人材育成の目標〉

スマートフォンや生活家電など、日常生活にとって欠かせない存在となっている電子システムの基礎から応用までに関する教育と、最先端の研究を通じて、電子機器、自動車、ロボット、電力などの基幹産業でリーダーとなり活躍できる人材の育成を目指します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

自然現象に対する好奇心と洞察力を有し、数学、物理、英語などの基礎学力および論理的思考力に優れた人を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

論理的思考力、好奇心や数学・物理の基礎学力ならびに修学に必要な基礎知識、チャレンジ精神と行動力

【情報工学課程】

〈人材育成の目標〉

製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支える ICT（情報通信）分野でリーダー

シップをとって活躍する人材、および ICT を活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成を目指します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

数学、物理学や英語の基礎学力を重視し、論理的な思考力や表現力を持って意欲的に課題に取り組める人材を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

数学と物理学の高い基礎学力、論理的な思考力や表現力、好奇心、チャレンジ精神と行動力

【機械工学課程】

〈人材育成の目標〉

幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性のある人材の育成を目指します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

ものづくりが好きで、数学や物理学の基礎学力を持ち、創意工夫して忍耐強く問題に取り組める人で、自然に対する興味や好奇心、注意深い観察力を持つ人を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

ものづくりが好き、観察力、旺盛な好奇心、論理的思考力、創造力、チャレンジ精神と行動力

【デザイン・建築学課程】

〈人材育成の目標〉

世の中の幅広い事象について、工学的・文化的・社会的・経済的に把握し、同時にそれが生み出されていくプロセスを理解した上で、実際にすぐれたモノやコトを広い視野でデザインし、プロデュースやビジネス化の実現ができる人材の育成を目指します。

〈選抜の方針・ポリシー〉

緻密な論理的思考力と社会に対する洞察力、それを支えるバランスのとれた学力を持ち、同時に、美や造形に関心を持ち、行動力と協調性があり、自らも表現することに熱意のある人を求めます。大学入学共通テストにより幅広い基礎学力を測るとともに、個別学力検査では、課程の専門教育の基礎となる教科・科目の学力や総合的な学力を測ります。大学入学共通テスト、個別学力検査等と調査書等を総合し、上記の適性を測ります。

〈求める能力・適性〉

論理的思考能力、美しいものに対する感受性、人間や社会およびビジネスに対する関心と理解力、新しい可能性に向けての創造力、チャレンジ精神と行動力、コミュニケーション能力と協調性

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：Webによる公開

https://www.kit.ac.jp/uni_index/principle/organize/

https://www.kit.ac.jp/uni_index/publication/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
その他	—	116人	88人	3人	57人	2人	266人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
2人			199人				201人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：Webによる公表 https://www.hyokadb.jim.kit.ac.jp/top/ja.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
工芸科学部	583人	589人	101%	2,432人	2,641人	108.6%	50人	59人
合計	583人	589人	101%	2,432人	2,641人	108.6%	50人	59人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
工芸科学部	615人 (100%)	457人 (74.3%)	131人 (21.3%)	27人 (4.4%)
合計	615人 (100%)	457人 (74.3%)	131人 (21.3%)	27人 (4.4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>【様式第2号の3より再掲】 毎年2月に次年度開講する全科目について、総合教育センター長から授業担当教員に授業計画（シラバス）の作成依頼を行い、4月1日にWeb公開している。 総合教育センターでは、シラバスの全記載項目について、審議・決定している他、各授業科目において、適正に記載されているか随時点検も行っている。 掲載項目は以下のとおり。</p> <p>【シラバスの項目】</p> <p>■科目分類 学部等、学域等、課程等、分類、今年度開講、年次、学期、曜日時限</p> <p>■科目情報 時間割番号、科目番号、単位数、授業形態、クラス、授業科目名、担当教員名、インターンシップ実施科目、国際科学技術コース提供科目、アクティブラーニング要素が含まれる科目、PBL実施科目、実務経験のある教員による科目、科目ナンバリング</p> <p>■授業の目的・概要</p> <p>■学習目標</p> <p>■学習目標の達成度の評価基準（JABEE 関連科目のみ）</p> <p>■授業計画項目・内容</p> <p>■履修条件</p> <p>■受講に当たっての留意事項（授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容や目安となる時間を含む）</p> <p>■教科書/参考書</p> <p>■成績評価の方法及び基準</p> <p>■備考</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

【様式第2号の3より再掲】

学生に対して、適切に学修指導を行い、学生の学習意欲を向上させることを目的に、学修の状況及び成果を示す指標として GPA 制度を導入し、評価基準等を Web で公開している。

全学生に配付する履修要項に GPA 制度の趣旨を記載し、また新入生に対するオリエンテーションにおいて詳細な説明を行っている。この評価基準に基づき算定した GPA 値を記載した成績表を学期毎に学生に交付している。

また、課程長など各教育組織の責任者が各学生の GPA や単位取得状況、課程内の分布などを確認できる Web システムを構築し、学修指導に活用している。

GPA の算出方法については以下のとおり。

[京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則 (抜粋)]

第 14 条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又は F をもって表し、S、A+、A、B+、B、C+ 及び C を合格とし、F を不合格とする。なお、履修中止を W、認定を認と表記する。

2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。

評価	評点	ポイント	評価の基準
S	90 点～100 点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85 点～89 点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80 点～84 点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。
B+	75 点～79 点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。
B	70 点～74 点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。
C+	65 点～69 点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60 点～64 点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60 点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な学修指導に資するため、第 1 項の成績に当該学年の GPA (Grade Point Average) (当該学生が受講登録をした全ての授業科目 (第 8 条の規定により履修を中止したものを除く。) に係る 1 単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。) 及び入学後の累積の GPA を併記するものとする。

4 GPA は、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる授業科目は、単位互換による授業科目、教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目及び単位認定授業科目を除く全授業科目とする。

$$GPA = \{ (S \text{ の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{ の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{ の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{ の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{ の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{ の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{ の修得単位数} \times 1.0) \} \div \text{総登録単位数 (F を含む。)}$$

(卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること)

【様式第2号の3より再掲】

本学では工芸科学部および各課程の教育研究上の目的を達成するため、学位授与の判断のための基本的な考え方、また期待する能力をディプロマ・ポリシーとして示し、Web で公開している。

[京都工芸繊維大学工芸科学部ディプロマ・ポリシー]

工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成すること」を達成するために、以下に掲げる「工織コンピテンシー」（本学卒業生として有すべき能力）を定めています。

この工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）となりうる人材と認め、「学士（工学）」（応用生物学課程においては「学士（農学）」）の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。

学部ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）

【専門性】

- ・ 自らの学習領域における高度な専門知識・技術を有している。
- ・ 新しい技術を国内外から学び、改善・発展する能力を有している。

【リーダーシップ】

- ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。
- ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。
- ・ 言語・文化・習慣など価値観の異なる多様な人々と、建設的な議論と他者支援を行い、成果へと導く能力を有している。
- ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。
- ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。

【外国語運用能力】

- ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をを行い、表現をする能力を有している。
- ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。

【文化的アイデンティティ】

- ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。
- ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
工芸科学部	応用生物学課程	134 単位		
	応用化学課程	134 単位		
	生体分子応用化学課程	134 単位		
	生体分子工学課程	130 単位		
	高分子機能工学課程	134 単位		
	物質工学課程	134 単位		
	電子システム工学課程	134 単位		
	情報工学課程	134 単位		
	機械工学課程	134 単位		
	デザイン経営工学課程	134 単位		
	デザイン・建築学課程	134 単位		
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：Web による公開</p> <p><施設等></p> <p>○土地・建物 https://www.kit.ac.jp/uni_index/data/data_building/</p> <p>○厚生施設・研修施設 https://www.kit.ac.jp/uni_index/data/data_institution/</p> <p>○課外活動施設 https://www.kit.ac.jp/uni_index/data/data_activity_facilities/</p> <p>○学生食堂・売店 https://www.kit.ac.jp/campus_index/life_fee/store/</p> <p><その他学修環境></p> <p>○図書館利用について https://www.kit.ac.jp/campus_index/lesson_schedule/library/</p> <p>○英語自習プログラム https://www.kit.ac.jp/campus_index/lesson_schedule/english/</p> <p>○共同利用 PC https://www.cis.kit.ac.jp/services/sharedfacilities/pc/</p>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
工芸科学部		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(1) 入学料・授業料免除及び徴収猶予 修学支援新制度による入学料・授業料免除制度のほか、経済的理由により入学料・授業料の納入が困難な者に対して、入学料・授業料の徴収猶予制度を設けている。
(2) 特待生制度 学業成績が極めて優秀な2～4年次生を対象に、前期分授業料の全学を特別に免除する制度を設けている。
(3) 各種奨学金制度 日本学生支援機構による奨学金を始め、地方公共団体・民間育英団体の奨学金の募集・応募に際して、様々なサポートを実施している。
(4) スタディ・アドバイザー 履修や修学上の相談、将来の進路に関する相談等、学生諸君の様々な相談に対応するため、各課程の教員を、スタディ・アドバイザーとして配置している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) (1) キャリアカウンセラーによる就職相談の実施 (2) 就職活動に関するガイダンス及び採用選考対策研修の実施 (3) キャリア教育に関する講義の実施 (4) インターンシップに関するガイダンス及びインターンシップ選考対策研修の実施 (5) OB・OGとの交流イベントの開催 (6) 学内でのキャリア教育及び就職支援に関するイベントの開催（合同企業説明会等）
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) (1) 保健管理 保健管理センターでは、学生及び教職員の心身の健康維持・増進を図るため、定期健康診断や特殊健康診断、健康相談（診察）などを行っているほか、医師・看護師が不慮の疾病やケガに対する応急処置を行うとともに、必要に応じ医療機関への紹介も行っている。
(2) 心理カウンセリング・障害学生支援 アクセシビリティ・コミュニケーション支援センターでは、学生の方々の心の悩み、人づきあい、困りごと、気持ちの整理など、何でも相談を受け付けている。また、障害のある学生の修学上の配慮に関して、学内外の組織・機関と連携し、適切な配慮を受けることができるよう支援している。
(3) ピア・チューター制度 障害等により修学上の様々な困難を抱える本学学生を、授業や大学生活上においてサポートする本学学生による学生の支援制度を設けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：Webによる公開 https://www.kit.ac.jp/uni_index/publication/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F126110107425
学校名	京都工芸繊維大学
設置者名	国立大学法人京都工芸繊維大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		198人	210人	228人
内 訳	第Ⅰ区分	117人	115人	
	第Ⅱ区分	46人	60人	
	第Ⅲ区分	35人	35人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				234人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	-		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	-		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-		
GPA等が下位4分の1	38人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-		
計	44人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。